

2018年度 委員会活動 成果報告会

2019-6-4

輸出管理委員会

委員長 眞田 浩一(菊水電子工業(株))

輸出管理委員会の体制

委員会

委員長……………真田 浩一(菊水電子工業)

副委員長……………林 桂一郎(小野測器)

副委員長補佐…原田 和幸(アンリツ)

▼参加企業数(2019年3月時点)

全31社33名(含オブザーバ4社)

▼開催回数 10回 出席率 74%

分科会

技術分科会 主査…上村 美幸(日本電計)

リスト規制に関する法令を調査検討する

制度分科会 主査…野田 賢三郎(新川電機)

輸出管理関連の法律を解釈し、対応を検討する

通関手続分科会 主査…木村 治彦(日置電機)

輸出入に関連する必要な手続きや関係法令について調査研究する

輸出管理勉強会

講師…白田 一弥(菊水電子工業)、金子 哲也(岩崎通信機)

CISTEC主催の輸出管理実務者認定試験合格をめざす

輸出管理委員会のミッション

- ▼ 関連法規等の周知と遵守徹底を図り、会員企業の健全な経営に寄与する
- ▼ 工業会としての法規遵守姿勢の広報

実現のために

1. 輸出管理法改正動向の把握とパブリックコメント提言
2. 会員企業の輸出管理業務支援
3. 「安全保障貿易管理説明会」実施
4. 各企業の課題、悩みの共有・討議
5. 実地研修を通じた輸出管理の見識向上

1. 輸出管理法改正動向の把握と パブリックコメント提言

活動目的： 法規制の理解を深め、法改正等の動向を入手し、意見をパブリックコメントで提言する。

▼目標1：法令改正情報の理解と意見書の提出

法令改正のパブリックコメント募集に対して、委員会で共有・検討し、必要に応じて意見を提出する。

成果： **10月17日付で経済産業省に意見書を提出した。**

技術分科会および制度分科会で検討し、改正内容と修正要望を委員会で説明したうえで3件のパブリックコメントを提出した。

▼目標2：(一財)安全保障貿易情報センターへの活動参画

委員登録して会合に参加し、情報を入手して委員会メンバーに共有する。

成果： **制度・手続分科会に委員を派遣した。**

ここで入手した情報は定例の輸出管理委員会で報告・共有され、主幹当局である経済産業省の動向を把握することに貢献している。

2. 会員企業の輸出管理業務支援 (1/2)

活動目的： 会員企業の輸出管理の支援及びレベルアップに資するために、研修会・勉強会を実施する。

▼目標1：輸出管理勉強会の開催（委員会参加企業対象）

CISTEC主催の輸出管理実務者認定試験合格を視野に入れつつ、広く知識の吸収や疑問点の解決を目指す

成果： **10名登録、計10回実施した。**

CISTEC Advanced試験合格 2名

CISTEC Associate試験合格 3名

▼目標2：輸出管理セミナーの開催（委員会メンバー対象）

成果：**外部講師をお招きして講演を開催「懸念国の情報窃取」**

懸念国などの情報窃取活動の実際がよくわかる内容で、安全保障貿易管理業務においても大いに参考となった。

2. 会員企業の輸出管理業務支援 (2/2)

活動目的： 会員企業の輸出管理の支援及びレベルアップに資するために、研修会・勉強会を実施する。

- 当委員会で出版しているガイドン3部作（輸出管理教本、該非判定ガイドン、ハンドキャリー手続マニュアル）のうち該非判定ガイドンを改版して、第2版として2019年4月に刊行された。

刊行物名	2018年度 販売数	2018年度 売上概算	販売 累計数
輸出管理教本 (改訂第2版)	36部	¥72,000	818部
該非判定ガイドン (改訂第2版)	337部	¥606,600	337部
ハンドキャリー手続き マニュアル(第7版)	68部	¥74,800	1, 124部



JEMIMA 広告

あなたのデスクには、パソコンと
JEMIMA 輸出管理三部作
一般社団法人 日本電気計測器工業会 輸出管理委員会編

明快!!
安全保障
輸出管理教本
入門から実務まで

安全保障貿易管理
該非判定ガイドン
(改訂第2版)

ハンドキャリー
手続きマニュアル
海外出張に必携

輸出管理全般を学びたいならこれ!
明快!!安全保障輸出管理教本
入門から実務まで

該非判定について詳しく説明
安全保障貿易管理
該非判定ガイドン

海外出張に必携
ハンドキャリー
手続きマニュアル

詳しくはこちら 一部、内容もご覧いただけます

JEMIMA 調査報告書 検索

3. 「安全保障貿易管理説明会」実施

活動目的： 会員企業を対象として、安全保障貿易の啓発のための「安全保障貿易管理説明会」を実施する。

▼目標：「安全保障貿易管理説明会」の開催

- 経済産業省担当官を講師にお招きし、年2回(東京・関西)開催
- 日本分析機器工業会と共同開催
- 会員企業以外にも積極的に案内を実施

成果： **1/31(東京)、3/1(京都)にて開催し、208名が出席**

両会場で合計208名が受講し、会員以外の企業にも輸出管理啓発の場を提供した。

東京会場114名 (東京国立近代美術館 講堂)

京都会場 94名 ((株)島津製作所本社研修センター)

4. 各企業の課題、悩みの共有・討議 (1/2)

活動目的： 各企業の直面している課題、悩みを共有し解決策を討議する。

▼目標1：定例委員会、分科会での情報交換による課題解決

委員会参加メンバー間での情報共有と日頃の疑問を解消することを目標とする。

成果： 年間10回の委員会、分科会を開催した。

- 「弊社の輸出管理あれこれ」と題して輪番で自らの企業の輸出管理の悩み相談、特徴紹介、事例発表などを行い、普段聞くことが出来ない他社の取り組みや悩み、経験したことのない事例などを聴くことができ、自社の輸出管理の参考となった。
- 3つの分科会にて専門分野での課題について討議し、委員会において活動状況を報告し、参加各企業への情報提供に貢献した。

4. 各企業の課題、悩みの共有・討議 (2/2)

活動目的： 各企業の直面している課題、悩みを共有し解決策を討議する。

▼目標2: **コンシェルジュサービスによる支援サービス実施**

会員企業からの質問に回答するサービスを行う。

成果： **3件対応した**

JEMIMA会員企業の3社よりいただいた質問に対し、輸出管理委員会内にて検討して回答。

▼目標3: **海外展開におけるリスク管理**

必要に応じて委員会・分科会でとりあげ、研究・情報共有していく

成果： **米中間の貿易問題、米国のイラン制裁や国防権限法などに関して、各分科会や本会における討議の中で広く情報交換した。**

5. 実地研修を通じた輸出管理の見識向上

活動目的： 実地研修を通じ、委員の輸出管理についての見識を高める。

▼目標： **リスト規制貨物など先端技術を扱う民間企業、原子力・航空宇宙・国防等、または物流関連に係わる施設・機関を見学**

成果： **防衛装備庁艦艇装備研究所を訪問**

16名が参加し、展示室、フローノイズシュミレーター、大水槽、耐圧実験棟・衝撃実験棟などで説明を受けた。普段接することの無い情報を見聞し、広く実務知識を得ることができた。

＜直近3年間の実地研修先＞

平成27年度 国立極地研究所

平成28年度 理化学研究所

平成29年度 防衛装備庁航空装備研究所

今後の課題

▼参加企業の拡大

輸出管理委員会、分科会への参加委員を増やし、さまざまな製品への対応力を高めること。

▼参加企業のレベル確保

人材不足や世代交替といった参加企業各社の事情によるスキル低下を防ぐサポート強化。

▼コンシェルジュサービスのPR

会員企業の輸出管理を支援する本サービスのPR活動を行い、利用促進を図る。JEMIMA全体での会員支援サービスと一体となった仕組みを確立していく。

来年度の主な事業計画

- ▼輸出管理法改正動向の把握とパブリックコメント提言
- ▼会員企業の輸出管理業務支援
- ▼「安全保障貿易管理説明会」実施
- ▼各企業の課題、悩みの共有・討議
- ▼ 実地研修を通じた輸出管理の見識向上